

平成16年9月11日発行 (毎月10日発行) 第6巻第9号 平成11年6月14日第3種郵便物認可

BRIO

ブリオ



特集

男は白いシャツに帰る

- 河毛俊作 白シャツ論 • 実例「休日には白いシャツ」に行き着いた • 色気あるシャツを仕立てる方法
- ドレスの白、カジュアルの白。 • 今こそ正す 白シャツの衿 • タイをはずせば夜遊びシャツ
- 無垢を彩るアクセサリ • ジーンズに潔白シャツ • 伊勢丹メンズで選ぶ「大人の3枚」 • 特別なシャツをどこで買うか

「男子着物を羽織る会」夏の京都に遊ぶ

ミラノ発・懐ろの深いリビングルーム

聖地 上野・鶴橋へ焼肉遠征

カバー対談 是枝裕和 VS ユンソナ

9

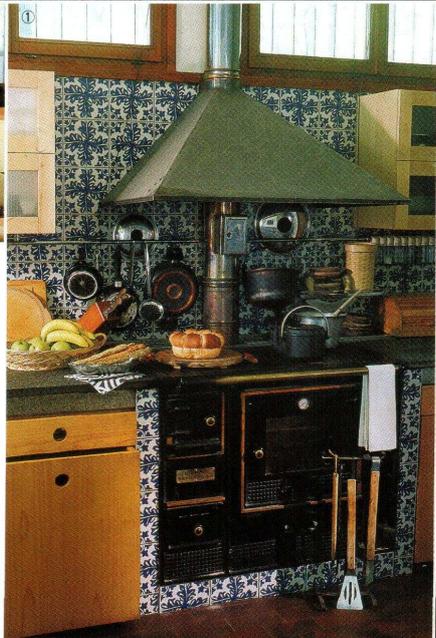
2004

大人の空間のなかに 限られた子供の天国を作る

リビングの南側に位置するファイアープレース。冬は実際に利用して、部屋はポカポカと。この地域の60年代の建築によく見られるベオラ石などの天然材をそのまま生かし、モダン家具を合わせて彼らしい山小屋風スタイルを作り上げた。



‘64年に建てられた家は山腹にあるヴィラの寮田。オークやティンバーが住み残る。



①夫婦共通の趣味は料理。キッチンの主役は伝統的なオープンコンロ。薪を使って利用する。ヒザは絶品に焼き上がる。壁のフルーの‘60年代のタイルはジョー・ボンティによるオリジナル。かねて家の一部に利用されていたものをここに移した。②父の仕事の関係で、よく訪れたアフリカから持ち帰ったオブジェが家を飾る。③趣味の葉巻。パイプはサビネーリなどを所有。

老いて街の賑わいを望んだ父から譲り受けた郊外の家

ミラノ中心街から車で30分。緑が生い茂る巨大な国立公園内にベッポの家がある。少し車を走らせただけで、ガラリと変わる自然環境には驚かされた。広大な敷地を誇るこの家は、もともと彼の父が週末の別荘にと建てた。だが、齢を重ねた父は、むしろ静けさより中心街の賑やかさを好み、そのままにしていたこの家を彼が引き継いだ。

子供が遊ぶプレイスポット、そして窓際には妻の趣味であるピアノが傾ましく顔を覗かせる。
「ここには気持ちよく読書ができてね。趣味に没頭しながらも、そばに子供たちを感じて安心します。ゆったりとした空間の生む距離感が、各人にプライベートの領域を保たせながら、互いの視線を温かく結び付けている。」
「そこに大きなラグが敷いてあるだろう。その上は、子供たちにとって治外法権の場所なのさ。夫婦が選んだ趣味のいいインテリアはしっかりと守り、一方、子供たちのファンタジーな世界を大人のエゴで締め出すこともしない。『確かにミラノの街の中心は便利かもしれない。でも、ここに家族と過ごすといると、心身ともに非常に健康で、仕事もはかどるんですよ。』」

仕切りの多かった家の壁を取り払い、ひと続きのリビングに改装。南の壁は一枚ガラスの窓、東の壁は書棚に。コルビュジェのシェーズロング・ソファやデパド社のソファ、フォンタナアルテのローテーブル——そんなモダン家具と、妻の手による子供のためのインディアン・テントとのコントラストがいい。

パッポ・ブロッロ さん(43)
建築家

ミラノ出身。建築事務所経営。もともと中心街に住んでいたが、'92年に父から受け継いだ郊外、チェザーテのヴィラに移り住む。都心での仕事も続けながら、自宅近くの大学で教授をとり、市役所の環境デザイン課にも勤める。かつては妻のモココも建築家で仕事のパートナーでもあったが、現在は、彼女は3人の子供たち、レベッカ(14)、ラケレ(8)、リカルド(3)と14匹もの犬(ご主人の趣味)の世話で大忙しとのことである。



自分の趣味と家族の団楽は両立できる

ミラノ発 **懐るの深い**
リビングルーム

妻がいて、子供がいて……。そういう場合、自分の趣味は書斎やベッドルームの限られたコーナーに追いやられてしまいがちだ。ここでは、書棚をはじめ、わが趣味の詰まったものと家族の顔とが共存する、理想的なリビングの様子を見てきた。

写真: Margherita Del Piano